

令和4年度

自己評価報告書

令和5年3月

日本航空大学校
北海道 新千歳空港キャンパス

日本航空大学校北海道の沿革

- | | | |
|--------------|-----|---|
| 1932年(昭和7年) | 10月 | ・甲府在郷軍人航空研究会を母体とし、航空発動機練習所開設 |
| 1933年(昭和8年) | 2月 | ・山梨県中巨摩郡玉幡村に40万平方メートルの飛行場を開設 |
| 1936年(昭和11年) | 8月 | ・財団法人山梨航空研究会を設立し山梨飛行場を設置。サルムソン機を使用して、飛行士養成を開始。所有機数10機 |
| 1939年(昭和14年) | 7月 | ・山梨航空技術学校設立認可を受ける |
| 1988年(昭和63年) | | ・熊谷陸軍飛行学校甲府分校が設置され、飛行場を共用。通信省航空局より200名、南方航空岡9326部隊より300名の整備委託生を収容、在校生2,000名となる
・卒業生は陸軍航空廠へ軍属として全員優先採用される |
| 1942年(昭和17年) | 1月 | ・国家の要請により山梨航空機関学校と改称
・航空整備士養成の専門校となる |
| 1945年(昭和20年) | 8月 | ・終戦により閉校 |
| 1960年(昭和35年) | 3月 | ・学校法人梅沢学園、山梨航空工業高等学校の設置認可を受ける(学校教育法第一条による高等学校) |
| 1964年(昭和39年) | 6月 | ・学校法人日本航空学園、日本航空工業高等学校と改称 |
| 1970年(昭和45年) | 10月 | ・日本航空専門学校(各種学校)の設置認可を受ける |
| 1974年(昭和49年) | 1月 | ・日本航空大学校と改称 |
| 1976年(昭和51年) | 5月 | ・日本航空大学校(専修学校専門課程)の認可を受ける |
| 1988年(昭和63年) | 4月 | ・日本航空学園千歳校(専修学校専門課程)開校 |
| 1992年(平成4年) | 4月 | ・日本航空大学校の航空整備科、航空電子科、メカトロニクス科の3学科を日本航空学園千歳校と統合する |
| 1994年(平成6年) | 4月 | ・日本航空学園千歳校を日本航空専門学校と改称 |
| 1995年(平成7年) | 4月 | ・運輸省航空局航空整備経歴認定施設となる
4月・空港技術科を新設する
5月・白老滑空場開設
9月・労働省技能講習指定教習機関となる |
| 1998年(平成10年) | 4月 | ・郵政省無線従事者養成施設となる |
| 1999年(平成11年) | 4月 | ・運輸大臣指定航空従事者養成施設となる |
| 2001年(平成13年) | 4月 | ・航空整備科を3年制に改編
・航空工学科開設 |
| 2002年(平成14年) | 4月 | ・航空システム科を新設
・航空工学科を航空技術工学科に改称 |
| 2003年(平成15年) | 4月 | ・白老町に日本航空専門学校白老校開設
・空港技術科パッセンジャーサービスコース開設 |
| 2004年(平成16年) | 3月 | ・北海道労働局長登録教習機関となる
4月・国土交通大臣指定航空従事者養成施設となる |

2006年(平成18年)	4月	・空港技術科パッセンジャーサービスコースを空港技術科航空観光ビジネスコースに改称
2007年(平成19年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・一等航空運航整備士コース新設、テストコース指定 ・航空整備科を一等航空運航整備士コース、二等航空整備士コース、二等航空運航整備士コース、システムコース技術コースの5コースに改編 ・一等航空運航整備士基本技術課程が国土交通大臣指定 航空従事者養成施設に指定される
2009年(平成21年)	4月	・航空技術工学科を航空整備科に統合
2010年(平成22年)	4月	・一等航空運航整備士(B767)専門課程が国土交通大臣指定航空従事者養成施設として指定をうける
2011年(平成23年)	6月	・空港技術科航空観光ビジネスコースを商業分野として国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)に改編認可をうける
2012年(平成24年)	4月	・国際航空ビジネス科(2年制)及び国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)新設
2015年(平成27年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科海外研修コースに改称 ・航空整備科システムコース廃止
2016年(平成28年)	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(空港技術科、国際航空ビジネス科)
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・国際航空ビジネス科(2年制)の名称を国際航空ビジネス科エアラインコースに改称 ・国際航空ビジネス科ハワイ語学研修コース(3年制)の名称を国際航空ビジネス科エアライン・留学コースに改称
2017年(平成29年)	11月	・キャビントレーニングセンター新設
2018年(平成30年)	1月	・女子寮(アメリカホール)新設
	2月	・文部科学省「職業実践専門課程」の認定を受ける(航空整備科)
	4月	・白老キャンパスの国際航空ビジネス科を新千歳空港キャンパスへ移転 学科定員を40名から80名に変更、男女共学とする
2019年(令和元年)	7月	・女子寮(アメリカホール)増築
	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・キャビントレーニングセンター2新設 ・教室棟(ダヴィンチホール)新設
2021年(令和3年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・校名を 日本航空大学校 北海道 に改称 ・航空工学科(4年制)を新設 ・研究科を新設

日本航空学園 建学の精神

日本航空学園の創立者「梅沢義三」は、建学の精神を『航空教育を通して愛国の精神を培う』と心に決め、昭和7年に「山梨航空機関学校」を設立しました。航空教育を行い、国家に有益な航空技術者を養成するにあたり、自分を愛し、家族を愛し、郷土を愛し、国を愛し、そして人類の共存に責任を持てる航空技術者であればこそ、愛機心を以て操縦や整備に当たることができるとの信念に基づいて教育を始めました。

二代目理事長「梅沢鋭蔵」は、創立者の建学の志を基に、校訓を定めました。

そして、現在の理事長「梅沢重雄」は、建学の志や先代が定めた校訓を基に、より豊かで優れた人間力を持つ人材の育成を目指して、「J-ship」という教育コンセプトを定めました。

校訓

- 一、礼節を尊び忍耐努力の精神を体得すべし
- 一、熟慮断行以て風林火山たるべし
- 一、至誠一貫信義を重んずべし
- 一、質実剛健文武両道に徹すべし
- 一、敬神崇祖以て伝統を承継し祖国を興隆すべし

・ **J** は、**JAPAN** (日本)、**JAA** (日本航空学園) の略称頭文字

日本航空学園で学ぶ日本人、外国人の学生、生徒を **J-ship** で育みます。

・ **S** は、**SPIRIT** (精神)、**SOUL** (魂) の略称頭文字

豊かな自然、良き伝統、良き慣習、そして家族や友人、先輩、後輩などすべてのモノ、人に対して感謝と慈愛の気持ちを忘れない人間としての健全な精神、魂を持つ人であれ。

【自由と規律】

航空機は大空を自由に飛ぶことができます。しかし、飛行するためには安全が最優先されなければなりません。

このため厳しい規律に従い、整備士やパイロットは、安全運航に努めています。航空技術者としての誇りは、大空を自由に飛ぶために、最大の努力ができる不撓不屈の精神を持っていることです。己の精神と技術により、国を世界を支えていることにあります。

規律は安全への第一歩、学生生徒が自由に夢を描き、語りながら、社会人としての礼節、そして、生き方を学びます。

【想像と創造】

想像しなければ創造出来ません。人間の行為は全て想像→行動→創造と進みます。想像は願望、要求であり出発点、計画、目的、目標です。

生き甲斐を感じ充実した時間に満たされた自分を想像することにより、自分の精神が出来、創造活動が活発化し、魂が完成していきます。

心の態度で成功が決まるのです。

・ **H** は、**HEART** (心)、**HEALTHY** (健全) の略称頭文字

美しいものは美しいと感じ、良いと思えるものには素直に感動し、喜怒哀楽には正直で、他人を常に思いやることのできる純粋で、きれいで、奥深い心、感性を持つ人であれ。

【共感共創】

全国そして世界から集う学生生徒は一人一人が皆素晴らしい輝きを秘めた原石です。

ダメだ、出来ないなどマイナスの言葉を全て一掃し、出来る、可能だ、好きだ、嬉しい、楽しい、美しいなどプラスの発想で心を磨きあげるのです。

教職員も学生生徒も一緒になって学園全体を黄金で輝く愛のベールで包み、潜在する能力を開発し、学習やクラブにとともに取り組み、行事を創り試合やコンテストにチャレンジし、喜びや成功を感じ、そして感謝して共に涙を流す人間的な心を育みます。

【健全性の育成】

健全とは心身共に健やかであることを意味していますが、健全な娯楽、健全な社会、健全な家庭、健全な学校があつてはじめて健全な青年に育成されます。学校と保護者は協力し合い、外部からの感情や刺激による衝動により言動が支配されることなく、分別や筋道をわきまえ冷静さを忘れず自分と所属する集団が正しく 保持できる状態を保てる公德心と健全性を育みます。

・ I は、IDENTITY（自己）の略称頭文字

母国と自分に誇りを持ち、自己の真の確立を実現するため、自分ならではの長所、個性をしっかり伸ばしていく忍耐、努力を惜しまない人であれ。

【長所伸展】

人間は誰でも得意、不得意があります。これは個性です。不得手なものを解消することに囚われ過ぎると時間と労力がかかり却って自信喪失になります。得意なもの、好きなことを拡大することにより、短所はカバーされてしまいます。万人全て大いなる可能性と能力を秘めています。自己を信じることです。

【国際理解】

学園建学の地、山梨県甲斐キャンパスの万国旗掲揚塔に次の文章があります。

「大空は世界をつなぐ 友愛は平和を築く 海外から集いし若者達よ 全国から集いし若者達よ大地に立て 空を舞え」本学園にはアジアをはじめ世界各地からの留学生が在学しています。人種、言語、宗教、政治的信条、軍事力、経済力を越えて人類愛という友情で結びつき、共に苦しみ同じ喜びを分かち合える人間性を育みます。航空人はエアラインで世界を結ぶ重要な使命を持っています。

それには、常に自国を意識して郷土愛、祖国愛を育み、共に助け合いそれぞれの祖国の繁栄に努めることの出来る大きな心の器を持った人間性を育むことが大切です。

・ P は、POWER（力）の略称頭文字

守るべき自分の夢、母国の未来、愛すべき家族の幸福を守るために必要な知力、体力を、不屈の志を持って鍛え上げていく文武両道に徹した力のある生き方のできる人であれ。

【目標に強く進む】

航空機は常に目的地に向い自差や偏差の修正を行い横風に流されず、向い風にも負けず、中間目標を捕捉しながら飛行し続ける強いパワーが必要なのです。そして着陸まで気を抜かず安全に留意するのです。学園は常に本物に触れ、体験しながら常に目的を忘れず意識し、目標に向い進むことを大切にしています。これが、学習することの基本となります。そして、最終目的を絵や写真のようにいつもイメージすることが大切です。

【強運となる】

気運を背負ってる人間には強いエネルギーがあります。そのエネルギーがさらに強い運を呼び込むのです。運気とはエネルギーです。引力のように其のエネルギーに引かれて幸運の女神はドアを開きます。成功を自分の力量と自惚れない、失敗を運や人のせいにしないで、全ての結果を絶対的肯定して感謝し、またチャレンジする度に運が強くなってパワフルな人生が歩めるのです。

日本航空大学校 北海道 のブランドプロポジション

「自由と規律」の人間教育と専門教育を通して感性と知性を
磨き社会に役立つ人財を育成する

■令和4年度 自己評価について

学校法人日本航空学園日本航空大学校北海道は、昭和63年に開校し、以来、航空業界へ有益な人材を多数輩出して参りました。充実した教育環境の中で実習・訓練を重ねた学生たちの就職率は、平成24年度以来100%を記録しています。今後も企業のニーズに即して教育環境の整備に努め、社会の発展に貢献できる人材の輩出に努めていきます。

本校では、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として、自己評価に取り組んでおります。より良い自己評価を目指して教職員並びに評価委員が真摯に取り組み、現状の把握、課題及び今後の方向性を協議して参りました。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる教育の質の向上を図ってまいります。

1、対象期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

2、実施方法

- (1) 学内に「自己評価委員会」を設置し評価を行っています。
- (2) 評価は「専門学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回年度末に行います。
- (4) 評価結果は、状況および課題と改善についてホームページで公開します。

3、自己評価の項目

自己評価は、以下の11項目について実施しています。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■ 1 教育理念・目標

評価項目	評価（4～1）
理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	4
学校における職業教育の特色を示しているか	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
教育理念に沿った教育活動が行われているか	3

状況および課題と改善策

- *教育の理念及び目的においては建学の精神をもとに、校訓・Jship・ブランドプロポジションなど具体的かつ明確に定め、社会に求められる人材を学科ごとに企業との連携を図って育成している。
- *学校の将来構想についてはコロナ禍を終え、社会経済や航空業界が活発に動き出した。国際理解の元、海外の学校と連携し、学生のEFによる留学や海外からの留学生の受け入れなどを行う。
- *教育理念、人材育成像など、SNSやホームページによる情報を発信し、本校だけでなく学園全体で共有している。
- *学生や保護者をはじめ、高等学校などの進学を考えている方々に向けて、学内行事や就職状況、学生生活状況等を積極的に発信している。在学生一人ひとりの進学を決めてから就職内定までのストーリーなどを学生の広報担当からも学生目線で学生募集部から発信することで、より身近に将来構想を持って本校の教育の意義を広く理解いただけるよう周知している。
- *学内で行われる全ての教育活動において、教育理念に沿っているか確認する必要がある。

■ 2 学校運営

評価項目	評価（4～1）
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

状況および課題と改善策

- *新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せ、航空業界において各社国内・国際線が需要増加、人員確保が急務となり求人が増加し就職率は11年連続100%を継続している。
- *本校は優れた人材育成をするために、施設・設備の充実を図るとともに環境整備を行い、学生の教育環境を改善している。
- *本学園規程により、人事・給与に関する制度は整備されている。
- *教育活動に関する情報公開については、コロナ対応状況、就職状況、学校近況報告など随時更新公開されている。また、学校HP以外でのSNSを活用した活動内容を常に発信している。
- *情報システム化による業務の効率化については、クラウドを利用したグループウェアシステムを導入して8年目になり教職員の活用状況は良好である。またeラーニングシステムや校務支援システム（BLEND）を活用し教員と学生間の情報共有をペーパーレス化した。また、Teamsを使用しオンライン授業や面接練習、会議など幅広く活用し業務の効率化を図った。その中でも、導入して3年目になるBLENDは従来の出欠管理、健康管理、成績管理、学生アンケートに加え、求人票がオンラインでいつでも閲覧可能など幅広く活用できペーパーレス化を促進した。

■ 3 教育活動

評価項目	評価(4~1)
教育理念に沿った教育課程の編成・方針等が策定されているか	4
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
関連分野における先端的な知識・技能的な修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

状況および課題と改善策

- *教育理念に沿った人間教育を更にすすめるために継続して実施している理事長講演に加え、ブルボンヌ様よりLGBTについての講演、小西博之通信制課程校長よりガンからの生

還を通して学んだ生きる喜びについて講演いただき、教育理念への理解を深めることができた。

- * 人間教育としても意義のある行事である卒業式を2年ぶりに対面で実施。保護者にも会場にて卒業生の成長を見ていただく機会を作ることができた。
- * 人間教育の重要な一端を担うボランティア活動もそれぞれ以下の通りコロナ前と同様に参加することが可能となり、地域交流を行い様々な経験をする機会を得られた。
 - ・ バイクジン祭り（3年ぶり）北海道マラソン、JAL マラソン（2年ぶり）
 - ・ 千歳市ミュージカルには今年から演者、裏方として参加し活躍した
- * 教育課程を滞りなく運営するために、コロナワクチンの接種会場への送迎を実施し、希望学生が接種できるよう接種日と回復日を設けて授業日程を再設定した。
- * コロナ禍はオンラインで実施していた毎年開催している企業説明会を、2年ぶりに各企業の担当者に来校していただいて実施することができ、就職活動を控えた学生にとって貴重な機会となった。
- * 公益社団法人 航空技術協会会長 伊藤 博行 様、ボーイング社 前田 伸二 様から講演をいただき、学生の航空業界への理解を深め、諦めない気持ちを育み職業として目指していく意欲を高めることができた。
- * 本年度より Student of the year として学校全体への貢献度の高い学生を教職員・学生の投票により選出・表彰し、成績のみではない評価への認識を深めてもらい、意識の向上を目指していく。
- * 令和3年度より導入したスキルアッププログラムにそって各教員が自己課題に基づき目標を設定し上長と面談を行い目標達成に取り組んでいる。授業アンケートを参考に自己分析と上長からのフィードバックをもとに自己評価し自身のスキルと授業の質の向上を目指している。
- * 定期的実施される職業実践専門課程の研修会に参加して授業及び学生に対する教員の指導力向上を図っている。また、業務内容以外にも教職員のマネープランの向上の提案として、ふるさと納税についての説明会をオンラインにて実施し、制度の利用方法と利点についてお話いただいた。
- * PBL(Project Based Learning)を導入し、各学科で授業に取り入れて自ら考えて行動する力をつける職業教育の実践が可能となった。
- * 国際航空ビジネス科のPBL授業では、千歳市内の交通網（インフラ）を整えることで世代間や地域間の交流を促進させることを提案。また、千歳企業とのコラボ・イベントを通して、企業や街の知名度アップに繋がるように努めた。

■ 4 学修成果

評価項目	評価（4～1）
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4

状況および課題と改善策

- *国際航空ビジネス科は13年連続、空港技術科、航空整備科は11年連続就職率100%を維持している。令和4年度については昨年度よりも企業からの求人数が増加し、学生の就職希望先企業の選択肢の幅が増加してきている。今後も採用試験の受験に当たり、学生への面接指導において複数の教員による指導、指導回数を増やし、採用試験に臨ませて行く。
- *eラーニングシステムや、teamsのファイル等で模擬問題や資料を閲覧できる様にし、学生のタイミングで自主的に予習、復習が出来る環境作りを増加させた。IATA国際航空貨物取扱士においては若干ではあるが合格率が下がった。また、二等航空運航整備士の合格率は例年の合格率よりも大幅に合格率が下がってしまった。今後は授業においては反復の指導を行い、過去の出題問題のみにとらわれず、学生間のグループワークを増やして実施し、出題・解答を出し合う等、知識のインプット、アウトプットの仕方（特にアウトプットが重要）を工夫し、学生自身にも現時点での技量レベルと必要とされるレベルを把握させながら、今後も資格取得の向上を図って行く。
- *令和4年度は令和3年度に比べ退学者は減った。その内訳は1年生が多く退学しており、就職実績や航空需要の回復等の説明を実施し理解させてきたが進路変更を理由に退学に至った。
今後も担任との面談等や保健担当教員、外部カウンセラーとで引き続き学生へのケアを実施して行く。
- *新型コロナウイルスに対する影響が落ち着き、企業へのインターンシップの機会が回復してきた。またOB・OGによる企業説明やオープンキャンパスでの職場説明の機会も増加してきた。今後とも、企業と連携し、情報交換等を含め、OB・OGの活躍する場を設けて行きたい。

■ 5 学生支援

評価項目	評価（4～1）
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

状況および課題と改善策

- *進路、就職に関する支援体制について、担任制を導入し、キャリアセンターと連携の

上、きめ細かく対応している。当年度も希望者について 100%を達成。

- * 学生相談に関する体制については担任、学科、保健担当、スクールカウンセラーと内容や段階を踏みながら相談を受けられ、学内で速やかに共有ができる体制を整えている。
- * 学生の健康管理を担う組織体制について、担任、寮監、保健担当において把握し対処を行っている。感染症に対しては千歳保健所と連携して対処している。
- * 課外活動に対する支援体制について、ボランティア活動や部活動においては教員の引率のもと実施している。当年度に於いてはイベントが復活し、ボランティアの活動実績は千歳 JAL 国際マラソン、北海道マラソンをはじめ 5 回、延べ 5 2 9 名の参加となった。
- * 生活環境への支援について、学生寮は寮監が 24 時間体制で勤務についており、寮生の荷物の受け渡しや体調不良があっても対応できる体制を整えている。食事については管理栄養士のもと栄養バランスが考えられた食事を寮生は 3 食、通学生は昼食を食堂で提供している。
- * 保護者との連携については、ホームページ、公式 LINE、郵送、Blend 等でお知らせを随時発信し、複数の媒体において情報取得のできる体制を整えている。
- * 社会のニーズを踏まえた教育環境の整備について、対面授業・オンライン授業の環境を整え、教室、実習場、Teams による双方向授業、Glexa による e-ラーニングシステム等、充実した体制を整えている。
- * 連携授業については文部科学省 採択事業（高等学校、企業との有機的連携による航空人材育成事業）を帯広北高等学校と連携し実証事業を開始した。また、他工業高校へも試験的に出前授業を行い、採択事業の拡大を図っている。

■ 6 教育環境

評価項目	評価(4～1)
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	4
学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	4
防災・防犯に対する安全管理体制は整備されているか	4

状況および課題と改善策

- * 社会のニーズを踏まえ、職業実践専門課程での教育編成委員会を通して、最新の正しい情報を得ることが出来ている。教員個々の企業研究の機会を増やし、学生の教育・進路指導に役立っている。航空工学科で使用する、2DCAD AUTOCAD を 20 台、3DCAD (CATIA) 20 台を有し、1 人 1 台を使用し授業を実施している。
- * 学生が授業ごとに必要な実習服や資料を整理及び管理ができるように全学生が利用できるロッカーを設置した。
- * 体育館の経年劣化に伴い床を削りワックス仕上げを行いラインの引き直し工事を行った。
- * 新千歳空港をはじめ、羽田・成田空港、中部空港等でも、職業実践専門課程賛同企業の

ご協力の下、それぞれの学科でインターンシップを行っており、学生は高いレベルで専門性の高い知識・技術を習得することが出来ている。

- * 授業終了後の放課後など、予習復習するために教室を開放し、設備を利用したりし、また不明なところは先生に聞ける体制と環境が整っている。
- * 朝から夜までは、担当の寮監が終日寮内の見回りを実施し、深夜は警備会社による 24 時間体制で防災・防犯に対する安全管理を実施している。

■ 7 学生の受け入れ募集

評価項目	評価（4～1）
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生の募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

状況および課題と改善策

- * コロナの影響により在校生数が減少。コロナ禍での就職実績や航空業界の状況、今後の展望を詳しくパンフレットやチラシ、HP にて発信することで、本校への進学や航空業界への就職に対する不安払拭を図った。
- * 「理系離れ」への対応の一つとして、工業高校への出前授業や工業校長会夏季講習会の実施等を行った。今後も継続実施し、工業高校や理系の学科を備えた高校との連携強化による学生募集に繋げていく。
- * SNS を積極的に活用し「本校の強み(就職・施設・環境等)」や「高校生が求める情報(入学後の学生生活～勉強・生活・アルバイト・遊び等)」を情報発信。
- * 高校訪問やガイダンス時においても、競合他校と比較した本校の優位性を示した募集活動を行い、入学者の回復に繋げた。
- * PBL を取り入れた課題設定・解決能力向上に向けた授業事例や、資格試験合格率を発信している他、パンフレットの卒業生紹介ページを増やし、本校での学びがその後どのように活かされているか伝えている。また、主体的に広報活動に関わる「広報学生」を組織化し、オープンキャンパスや各種イベントにおいては、広報学生を中心に参加者に対し直接学校の教育成果を伝えることで募集に繋げる事が出来た。
- * 学科によって募集状況が異なっている為、学科個別ごとに本校や仕事の魅力の伝え方、高校生に対するアプローチ方法の変化が必要と捉えており、YouTube 動画の充実や HP を閲覧者がより見やすく、使いやすいものへとリニューアル中。
- * 学納金は、教育内容や施設設備の状況を鑑みて、同分野の他校と比較検討したうえで決定しており、ほぼ平均的な金額と考える。

■ 8 財務

評価項目	評価（4～1）
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

状況および課題と改善策

- * 学生数の減少により R4 年度に収入は減少したが、R5 年度以降は学生数が増加する見込みである。
- * 日本航空高等学校 北海道（学年定員 80 人）の令和 6 年度の開校を目指し申請を進めており、高大一貫教育による人材育成を行いたい。
- * 通常費用以外の設備投資をはじめ、予算は学内で審議し、立案している。
- * 予算に変更が生じた際は、必要に応じ補正予算を理事会・評議員会において審議
- * 予算に対し決算額が大きく変動している項目はなく、有効かつ妥当なものとなっている。
- * 例年、公認会計士、税理士による会計監査を行うとともに、私立学校法及び寄附行為に基づいて専任した監事 2 名による監事監査を行っており、「内容は適正なもの認めます」と記載されている監事の意見書をホームページにおいて公開している。
- * 財務諸表は学校ホームページにおいて公開している

■ 9 法令等の遵守

評価項目	評価（4～1）
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

状況および課題と改善策

- * 法令や設置基準の遵守については適正に行われている。監督官庁や、弁護士・社会保険労務士・公認会計士・税理士などの専門家と相談を行い、遵守すべき内容を更新し、校内で共有している。
- * 個人情報の保護については、学園として「個人情報保護規定」「個人情報保護委員会規則」を定め、適用するとともに、担当部署による取扱いに関する注意事項の徹底、教職員や関係外部の方への案内等を実施し対応している。
- * 自己評価については、「学校自己評価委員会」を組織し、定期的な評価を通じて問題点を明らかにするとともに、対策および改善策を検討している。
- * 自己評価の結果については、学校関係者評価委員会開催後に学校ホームページにおいて公開している。

■ 1 0 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価（4～1）
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
航空業界の裾野拡大に取り組んでいるか	4

状況及び課題と改善策

- * ボランティア活動は5回、延べ529名が参加。千歳 JAL 国際マラソン、北海道マラソンをはじめ、大型のイベントの復活に伴い、ボランティア回数、人数ともにコロナ禍前に戻りつつあった。
- * 学校の教育資源・施設の活用について、地元航空少年団の活動の場として実習エリア（元滑走路）や体育館を提供している。千歳市主催でマイナンバーカードの受付申込場所として施設を使用。
- * 公開講座・教育訓練の受託について、工業高校のインターンシップの受入や、小中学校の見学受入等を実施し、航空業界の裾野拡大や本校への進学につなげるよう努めている。また、千歳市職員の研修を施設設備を利用し実施した。企業との連携で実施する「そらゼミ」を通年実施し、今後更に公益財団法人 日本航空教育協会との連携を図り航空業界裾野拡大に努めている。

■ 1 1 国際交流

評価項目	評価（4～1）
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学内で海外研修など適切な体制が整備されているか	4
海外留学に対する適切な体制が整備されているか	4

状況および課題と改善策

- * 留学生は1名在籍。韓国から整備科2年生1名が在籍。大学校に在学した後に就職に結びつけられるよう、就職サポートを手厚く指導中である。
- * 令和4年度は、全学科を対象とした2～4週間の短期留学と国際航空ビジネス科留学コースによる8.5か月の語学留学を実施している。短期留学は、マルタ3名、シドニー4名イギリス・ボーンマス1名の計8名、国際航空ビジネス科留学コースは、マルタ1名、トロント2名、バンクーバー2名、バンクーバーアイランド3名の計8名。現地の

語学学校で学びながら、ホームステイや寮での生活を満喫している。日本からは担当教員による月1回のオンライン面談・学生のレポート提出・学生からのヒアリングなどにも力を入れており、留学生生活を安全に送れるようコミュニケーションを取っている。航空業界では英語が必須であるため国際航空ビジネス科だけではなく他学科にも短期留学を促していきたい。

- *月1回実施している本校教員との留学面談では、手厚いサポートを実現することができた。別のホストファミリーへの引越しなど、適切に海外留学を進めることができた。
- *ウクライナからの難民であるオレナを受け入れ、1週間に6時間の日本語クラスを実施。日本での就職を目指し、必要な日本語の資格取得に向けて努力中である。
- *令和4年度は合計8名の長期留学者が渡航し、海外留学を実現させている。渡航中はコロナ感染することなく、無事に帰国している。帰国後も学内での受け入れ態勢はしっかりと整備されており、帰国後も通常のエアラインコースの学生とは別クラスで3か月ほど英語を集中的に勉強。春から1学年下のクラスとともに授業を受けている。このため帰国後すぐに始まった就職活動にも出遅れることなく、全員が夏までに航空会社の内定取得。8名中3名は客室乗務員の内定を得ることができた。